

白熊が見た淫夢 3

# 性を売る 王様

山牧田 湧進



【まえがき】

※【ご注意ください】

- ・この作品はフィクションです。実在の人物・地名・団体等とは一切関係ありません。
- ・この作品は成人ゲイ向け官能小説であり、男性同性愛を語っています。同性愛に嫌悪感を抱く方はご覧にならないよう、お願い申し上げます。
- ・この作品は表現の誇張、強調や省略のある、必ずしも現実には即していないファンタジーであることをご了承ください。
- ・特に作品中の性的描写は、現実の性交渉における性病等のリスクを意図的に排除しています。現実と混同しないよう、ご注意願います。
- ・この作品は想像して楽しんでいただくものです。現実との区別を付けられず、犯罪や迷惑行為に及ぶ危険のある方はご覧にならないでください。

【あらすじ】

※ストーリーそのものは完全に単独のものとなっておりますので、他の作品を知らなくてもお楽しみいただけます。

他国から無いのも同然との扱いを受ける辺境の北国、貧しい弱小国家キョクマの若き国王イヌカイは少しでも国民に豊かさをとの思いから他国へ援助を乞う訪問行脚を敢行した。

当然のように次から次へと交渉に敗れていく、そんな中、隣国グマーンの王子バンドウからイヌカイ個人宛ての密書が届く。

イヌカイの秘めたる能力を察知したバンドウはその能力を生かした商売をすることで援助と同等の資金を得られることを提案。

イヌカイは自国の民には内緒で週に一度、グマーン国で働くことになった。

秘めたる能力とはその容姿や体格も含めて『神の祝福』とも言えるレベルの性関連の能力、特に子種の質と量にあった。

イヌカイは自身の性を物として売り、視覚として売り、触覚として売る。

そうして得た賃金は秘密裏のうちに国で一番となり、イヌカイの淫棒はこっそりキョクマ国一の稼ぎ頭となるのだった。

## 【主な登場人物】

・イヌカイ

存在しないのと同じくらい地味で極小さく貧しい辺境の北国、キョクマの若き国王。おとなしい民族の中でなぜか一人だけ他国の男にも負けないほどの体格を有し、体毛少ないながらも綺麗な白い肌の美しくも優しい風貌から『白熊王』との異名を取る。本人も薄々気が付いてはいたが性欲・精力が異様に強く、以前はその処理に大変困っていた。援助を求めて近隣の国を訪ねた際イヌカイの特異な神の祝福に気付いたグマーン国のバンドウ王子がイヌカイのその特殊能力を生かした商売を提案。そうして、イヌカイは援助を受けるのに等しい資金を自らの働きにより生み出すことができるようになった。やたらと性に強いのにまだ経験が無いことは本人が恥ずかしがるので内緒。

(犬養 いぬかい 耕 おさむの夢世界のアバター。犬養 耕は『地下牢で処刑を待つ日々』

『Starring 犬養 耕』『黒熊 meets 伝説の白熊』『白熊山荘』の主人公です。

『白熊が見た淫夢』の1は『黒熊 meets 伝説の白熊』に付録しています。）

・バンドウ

キョクマの隣国グマーンの王子。豊かな国で様々な文化が芽生えられるだけの余裕がある。貴族を中心に容姿端麗な男性の肉体美を愛するという文化もあり、バンドウもそういった趣味・嗜好を持つ一人だった。援助を求めに来たイヌカイに特異な神の祝福の存在を嗅ぎ取ったバンドウは援助の代わりに独自の商売を提案。イヌカイに身体で稼げる道を開いた。豊かな国の技術力とバンドウ本人の才能を生かしてイヌカイの仕事をサポートしてくれるイヌカイのお兄さんの存在。

（利根 とね 万道 ばんどうの夢世界のアバター。利根 万道は『地下牢で処刑を待つ日々』『黒熊 meets 伝説の白熊』『5、と過す犯られ三昧ツアー』『山奥の更生施設にて』の主人公です。『Starring 犬養耕』にも少しだけ登場し、『白熊が見た淫夢』の1でも犬養の相手役を務めています。）

## 【目次】

表紙	1
まえがき	2
あらすじ	3
主な登場人物	5
第1章 国民にはどうか内緒で頼む	9
第2章 国一番の稼ぎ頭	15
第3章 疑似性交射精記録	17
第4章 画面の向こうを誘惑して犯す	19
第5章 暴走機関者	21
第6章 白熊ふれあいコーナー（寝落ち）	23



# 第1章

## 国民にはどうか内緒で頼む

「では、行ってくる」

「白熊王、どうかお気をつけて」

私は辺境の北国、キョクマの王、イヌカイと申す。

国王といっても、極小さく貧しい国の一介の主、そして、まだ若輩者である。こんな弱小国家がなぜ生き残っているのかというと、我が国の領土は攻め入るに値しない、と、どの国も判断しているからである。

資源にも乏しければ、気候も一年を通して日当たりが悪く、土地も痩せていて作物も上手く育たない。

占領したところで、得られるものが何も無いのである。

一方、国民の数も少なく、おとなしい性格の民族である我々が、豊かさ、あるいは楽に暮らせる土地を目指してどこかへ侵攻したりする、ということも無い。

そもそも、軍事をどうこうできるほどの国力が無い。

すなわち、放って置いても害が無いため、他国からすると、この国とこの土地は、無いのと同じ扱いになる。

そんな国で、せめてもうひとかけらの幸せを国民に分け与えたい、と、私は隣の国に援助を求めに行った。

ただ、こちらから差し出せる対価があまりに乏しくて、交渉は門前払いに近いものとなり、……そうだった。

今、私は週に一度、隣国グマーンへ物資の調達に出掛けている。

グマーン国は私のために専用の旅の扉を設置してくれて、そのお陰で、私はグマーンへの行き来に時間を掛けることなく移動できるようになり、こうして、週に一度の買い出しができるようになった。

ただ、この貧しい国で、例えば国王であろうとも潤沢な資金というものは持ち得ていない。

私がグーマンへ出向くときは、物資運搬のためのコンテナ以外は手ぶらで出掛けることになる。

資金は、私が現地で働いて調達するのだ。

国民にはもちろんのこと、側近にもこの仕事のことには内緒である。

他の者は皆、私がさも交渉上手な人間であると思ひ込んでいる。

そんなわけがない。

申し訳無いことだが、私にそんな能力が有るのならば、この国はもっと豊かになっっているはずなのだ。

第一、援助を求めに近隣諸国を巡ったときにだって、側近の人間達は私が無様に交渉に敗れていくところを何度も見てきたはずなのだ。

ただ、その後、私個人宛てにとある通知が来て、急に援助を受けられるようになった。

それを、私の能力による成果であると、どうやら民は思っているらしいのだ。

本当は援助を受けているその場面を、側近の一人でも連れて行って見せてやれば、別に私に優れた交渉能力があるわけではない、ということが嫌でも分かるはずなのだが、どうしても私はその場面を見せることができないのだ。

いや、見られたくない。

我が国の民の、誰一人にも。

旅の扉は私しか使えないようになっていた。

いや、そうしてもらったのだ。

側近を付けることができない言い訳にするために。

そうして、今日も一人、私は旅立つ。

たった一人で隣国へ赴き、帰って来たときには多くの物資を抱えている、とあれば、どうしても私は英雄視されてしまう。

それも、毎週必ず戦果を得てくるものだから、なおさらである。

でも、本当はそんなのではないのだ。

決して、そんな格好良いものではないのだ。

だが、それを私の口からはとても言えるものでもないのだ。

そんな歯痒さを感じながら、いつも私はこの旅の扉を潜る。

(こちらは体験版です)

## 第2章

### 国一番の稼ぎ頭

(こちらは体験版です)

## 第3章

# 疑似性交射精記録



(こちらは体験版です)



## 第4章

# 画面の向こうを誘惑して犯す



(こちらは体験版です)



## 第5章

# 暴走機関者



(こちらは体験版です)



## 第6章

### 白熊ふれあいコーナー (寝落ち)



（こちらは体験版です）



# 仕事の後

# 第7章

(こちらは体験版です)



# 性を売る王様

白熊が見た淫夢 3

OpusNo.            Novel-070  
ReleaseDate      2020-09-30  
CopyRight ©      山牧田 湧進  
& Author            (Yamakida Yuushin)  
Circle                Gradual Improvement  
URL                    [gi.dodoit.info](http://gi.dodoit.info)

個人で楽しんでいただく作品です。  
個人の使用範疇を超える無断転載やコピー、  
共有、アップロード等はしないでください。  
(こちらは体験版です)